

刑部
正
刑部
正
刑部
正

ナ
ル
ク

司法省上申

斷獄律出入人罪條罪ヲ斷シテ入ルハニ失スル者ハ

三等ノ減スト云フニ依リ本罪懲役四十日ヨリ三等

ヲ減シ處由ヲ首トナレ第四從タルヲ以テ二等ヲ減

シ

無科

三重縣參事岩村定高 同權參事島山重信

右適律申上候也 十一月五日

上請ノ通 十一月十日

五月七日 壬午

十四

三重縣權令岩村定高外一人關毆罪ヲ斷シテ失出スル

ニ付待罪

權令岩村定高權參事島山重信 同官宛
各通

昨明治六年九月五日伊勢國庵藝郡大古曾村榎本末

吉外五人擬律ノ儀今般司法卿ヨリ諮問ニ相成右ハ

其同謀共毆スル者著手出先後傷ノ輕重等ヲ以テ論

シ首從ノ法ヲ以テ可論限リニ無之處關毆手足ヲ以

テ人ヲ毆テ傷ヲ成ス者名例律共犯罪分首從條ノミ

ニ準擬末吉造意者ナルヲ以テ首トナレ佐脇庄次郎

外四人ヲ從トナレ減等擬律イタレ主住者調出候處

全ク庄次郎外四人筈一十失出不調ノ廉々心付不申

其儘裁決處刑仕疎漏ノ段本都合ノ次第奉悉入候依

三十七

大政類聚

之進退ノ儀奉伺候以上三月三十一日

同上文官宛
各通

昨明治六年十月十三日處刑伊勢國鈴鹿郡三ツ寺村
白井孫太郎同年十一月十七日處刑伊賀國河拜郡宇
田村松尾嘉次郎平井市藏擬律ノ儀孫太郎ハ關毆造
意ニレテ手ヲ下サ、ル者手ヲ下ヌ者ニ一等ヲ減シ
笞二十ニ處シ嘉次郎外一人ハ瓦石挺棒ヲ以テ人ヲ
毆テ傷ヲ成ス者從テ論シ笞三十ニ擬律イタレ主
任ノ者ヨリ調出候ヲ其儘裁決處刑仕候處右ハ全ク
名例律トモ犯分首從條及關毆律關毆條誤解仕孫太
郎笞二十失入嘉次郎市藏ハ笞一十ツ、失出ノ段今
日ニ至リ心付太甚不都合ノ次第深奉恐入候依之進
退ノ儀奉伺候以上三月三十日
司法

司法省工申

本條關毆ノ如キ原謀者手ヲ下サスト雖モ罪ナキニ
非ス一等ヲ減シ懲役三十日ニ處スル至當トス然ル
ヲ誤テ原笞二十ニ處ス素ヨリ失入スル者ニ非ス仍
ホ懲役十日ヲ失出スル者トナス出入ノ罪條罪ヲ斷
シテ出タスニ失スル者各五等ヲ減スト云ニ依リ懲
役十日ヨリ五等ヲ減シ所由無科ニ歸スルヲ以テ

無科

三重縣權令岩村定高
同權參事 鳥山重信

餘罪ハ等シ一ニ從テ科ス

右適律申上候也五月三日
外史主査 司法

上請ノ通五月七日